



低・中・高学年に分かれて、夏休み中に調べた「衣川のお宝」をみんなで発表

## 衣川のお宝たんてい団 が北股の星空を観察

衣川小学校（佐々木伸校長、児童114人）のコミュニティスクール・パートナー企画委員会が「地域の良さを学び合い、地域を愛する子どもを育てよう」と毎年実施している「衣



12衣川天文台の屈折望遠鏡で土星を見る子どもたち。初めてのことに興味津々 3衣川星を見る会会員の解説を聞きながら星空を見上げる参加者 4写真中央を縦に走るのが天の川。市街地の明かりを反射しない澄んだ空気のおかげで肉眼でもはっきりと見える（8月8日撮影）

川のお宝たんてい団」。児童たちが、家族や地域の学習サポーターの協力を得ながら、衣川の自然や動植物、歴史、郷土料理などを調査・研究しています。

この取り組みに衣川星を見る会が協力。7人の児童が星空観望会に参加し、8月25日の発表会でその成果を発表しました。

同校6年の熊谷莉緒さんと小形佳音さんは、衣川が星空日本一に選ばれたことがあると知り参加。「想像していたより、たくさん星が見えました。また参加してみたいし、みんなにも見に来てほしい」と目を輝かせました。

そして2人は「星空は衣川のお宝だと思った。きれいな星空が変わらなければいいな」と願います。



熊谷 莉緒さん（12） 小形 佳音さん（11）



# 星空で自然を感じる

## 2年連続の「星空日本一」

衣川区北股の星空が、当時の環境庁が実施した全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）で星空日本一に輝いたのは平成4年夏のことでした。

北股小学校のPTAが、ベガ（こ座の1等星・おりひめ星）と2つの星で作る三角形の中の星19個が7倍の双眼鏡でいくつ見えるかを競うこの取り組みへの参加を企画。8月5日、4年生から6年生までの児童30人とその父兄が観察を行いました。その結果、19個の星すべてを確認し、平均観察等級（何等級の星まで見えたかの平均値）で12・6と参加団体トップの数値を記録。夏の星空日本一に選ばれました。

これをきっかけに発足した「衣川星を見る会」（高橋延明会長）が北股小学校の児童たちをサポートし、翌5年1月の冬の観察でも日本一に輝きます。衣川区北股は、夏冬どちらでも日本一星空がきれいに見える場所と認められたのです。

この年は、ペルセウス座流星群の母彗星スィフト・タットル彗星が133年ぶりに太陽に接近するチャンスにも恵まれ、衣川星を見る会は8月に「ペルセウス流星群観察会」を開催。約300人が参加し、水沢高

校の天文部員たちは一晩で350個の流星を数えました。これ以降、夏の星空観望会は続き、こしは7月31日と8月12日に行われました。

## 星空が教えてくれるもの

星空がきれいに見えるためには、空気が澄んでいなければいけません。星を見る場所に明かりがなくても、大気中のちりなどが周辺の市街地の明かりを反射すると、夜空が明るくなり星の光を遮ってしまうからです。空が暗いということは、空気がきれいということ。空気を作るのは、森や山の木々で、それを育むのは土地を流れる水です。つまり、日本一の星空を作っているのは、衣川の自然にほかなりません。

「山の頂上や海の上など、もっと星がきれいに見えるところはいっぱいある。でも、人の暮らしがあるところまでこまできれいに見えるのは素晴らしいこと。だからこそ、子どもたちに見せてあげたい」と衣川星を見る会の高橋会長は力を込めて語ります。

ぜひ衣川区北股の星空を見上げて、体全体で自然を感じてみてください。瞬く星たちや夜の静けさは、自然の素晴らしさと私たちが暮らす環境の大切さを語りかけてくれるでしょう。